



お子さんが元気いっぱい遊ぶのはとてもうれしことですが、けがや事故など心配ですよね。今回は「子どものけがとその対処法について」のお話です。

子供の怪我の中でも比較的小さいお問合わせが多い、2点についてまとめました。

子どもが頭を打った時

子どもが頭を打つと、心配になると思います。自分で症状を伝えられないような小さなお子様の場合はなおさらです。そのような時は、頭を打った時の状況から、危険度を考えることも大切です。

特に注意が必要なのは、まだ頭が柔らかい6~7か月以下の赤ちゃんが、1m以上の高さから、衝撃の強い場所（石やコンクリートなど）へ転落した場合です。

目安	要注意	リスク低め
年齢	6~7か月以下	おおむね1歳ころ~
高さ	1m以上	1m以内
場所	衝撃の強い場所 石 コンクリート アスファルト 鉄 タイル など	衝撃の弱い場所 畳 じゅうたん フローリング 草席 砂地 土 木 など

すぐに受診が必要なのはどんな時?→保護者の方が受診を迷わない時です!!

- 意識がない（短時間でも）
- けいれん
- 大量出血
- 様子がいつもと違う
- 打ったところが異様にへこんでいる
- 変によく眠って起きない
- 手足のまひ
- ひどい頭痛
- 嘔吐を繰り返す など



おそらく、このような状況の時は保護者の方は受診を迷うことはないと思います。救急車などですぐに病院に行ってください。

受診を迷う時はどのような点に気を付けて様子を見ればよい?

まずは経過観察する時間の目安を知っておきましょう。発生から6時間までが要注意です。何か大きなことが頭の中で起きている場合は、6時間以内に症状が出ると言われています。続いて24時間、さらに48時間経過して何もなければ、おおむねひと安心と言えるでしょう。その間に痛がったら冷やしても良いでしょう。嫌がる時には無理に冷やさなくてよいです。嫌がるのは元気な証拠かもしれません。

早い段階で症状を見つけることが大切です。次のポイントに注意して観察してください。

- 表情、顔色
- 元気さ
- 嘔吐を繰り返すか
- 頭痛が続くか など

今月の絵本

ちのはなし ぶんとうえ 堀内 誠一

ケガをすると血が出てきます。血ってなんだろう・・・そんな興味に答えてくれる絵本です。「4さいから楽しめます」となっていますが、詳しく説明してくれているので、少し難しいかもしれません。

クリニックの本棚にあるよ!



すり傷・切り傷・刺し傷など、血が出たときの応急処置は?

公園など、外でケガをしたときは、まず、水道水で傷口をきれいに洗い流してください。消毒液がなくても、水で大丈夫です。きれいになるまで流せば、細菌なども流れていきます。冷たさで少ししみるかもしれませんが、消毒液のような刺激はありません。その後、タオルやハンカチなど、清潔なものでおさえて止血します。

以前は傷口は乾かして治すといわれていましたが、最近では人工的なかさぶたの役割を果たすような絆創膏を貼り、乾かさずに治すのが良いといわれています。



傷口からは透明な体液が出てきますが、その中には傷を治す成分が含まれています。これを傷口にとどめ、治りを促すのです。この方法は、自分自身の治癒力を利用しているので、消毒液を使うと治りが遅くなることもあるそうです。様子を見ながら、毎日、あるいは数日に1回、貼り替えます。傷の周辺が赤くなったり、うみが出てきたりしたら、使用を中止して医師に相談しましょう。

何かを受診すればよい?→ケガの処置が必要な時は、整形外科、形成外科・外科

傷口が大きく深い場合など、縫合が必要なケガは、小児科では処置が出来ません。そのようなときには外科系（整形外科、形成外科、外科）に受診をし、処置してもらってください。

自然治癒で良いのか、外科系の病院を受診すべきなのか迷ったら、当クリニックに相談にいらしてください。診察の後、専門的な処置が必要と判断した場合、外科系の病院への受診をお勧めいたします。



お知らせ

札幌市からのコロナワクチンの供給不足により、予約の変更、キャンセルをさせて頂いた方々には、大変ご迷惑をおかけしました。

コロナワクチン関連の専用ダイヤルを設置しました。

☎070-2280-1397

コロナワクチンに関しましては、こちらにお電話ください。

次回もおたのしみに~

